

| | | | | | | | | |
|------|----------|----------|------------------|---------|-----------------|-----------|------|--|
| 会社情報 | トップメッセージ | HINO基本理念 | サステナブルな社会の実現に向けて | 日野の環境経営 | SDGsと日野の戦略・取り組み | CSRマネジメント | トピック | ESGの取り組み 環境 社会 企業統治 ESGデータ集・その他 |
|------|----------|----------|------------------|---------|-----------------|-----------|------|--|

〈サステナブルな社会の実現に向けて〉

「日野環境チャレンジ2050」

地球環境課題への取り組み方針

日野は、事業活動を通じた持続可能な社会の構築に貢献すべく、地球環境保全に関する基本的な考え方を「日野地球環境憲章」として策定し、関係会社を含むすべての従業員と共有・実践しています。

これに基づく「日野環境チャレンジ2050」および、その中間目標の「日野環境マイルストーン2030」を策定し、地球環境課題の解決に向けた活動を推進しています。

「日野地球環境憲章」 (1993年4月発行、2001年2月改定)

I. 基本方針

1. 地球環境の保全を総合的かつ継続的に進めます

私たちはディーゼル車のトップメーカーとして、よりよい製品を世界各国のさまざまな人々に提供し、豊かな社会づくりに貢献し続けるとともに、その環境影響を認識し、事業活動のあらゆる場面において汚染の予防に配慮しながら継続的改善を進めることで、人と地球の持続的発展のために努力します。

2. 地球環境の保全を具体的かつ確実に進めます

私たちは、環境マネジメントシステムの構築と運用を通じて、私たちに関連する法的及びその他の要求事項を遵守し、環境目的及び目標を定め、評価し、見直す活動を継続していきます。

II. 行動指針

1. 事業活動全般並びにクルマのライフサイクル全てに亘る環境負荷の最小化を図っていきます

トップレベルの環境性能を有する製品を社会に提供し続けると同時に、この生産及び物流過程においても環境負荷を最小化する技術をたゆまず開発します。
また、クルマのライフサイクルにおける全過程を包含する環境マネジメントシステムを構築し、運用します。

2. 関係会社とのパートナーシップをより緊密にして進めます

私たちが事業を営むには、多くの方々の協力が不可欠です。クルマづくりのパートナーと国内外で協力し合い、私たちの環境保全活動を更に大きな輪としていきます。

3. 情報開示・教育・啓発に一層つとめます

私たちの取り組みを一人でも多くの方に、より正確に知っていただくための活動を推進します。また私たち自らも、環境感性を磨き続けます。

4. 企業市民としての、社会的取り組みへの積極的な参画を行います

私たちが社会に対して出来ることは、よりよい製品の提供ばかりではありません。企業市民として、また地域に生きる企業人として、社会的取り組みに積極的に参画します。

日野の環境経営の体系 (2025年 環境取り組みプラン [詳しくは P.47](#))

「日野環境チャレンジ2050」と中間目標の「日野環境マイルストーン2030」の実現に向け、5カ年毎の実行プランを策定し、毎年のPDCAを回し、環境課題解決に取り組んでいます。



豊かで住みよい世界と未来を次の世代に“つなぐ”ために

2017年、日野は長期の環境ビジョン「日野環境チャレンジ2050」を策定し、「環境負荷ゼロ」へのチャレンジを宣言しました。

日野はこれまで「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」を会社の使命に掲げ、世界中のお客様のニーズにお応えするトラック、バスなどの商用車の製造・販売・サービスを通じて、お客様のビジネスを支え、社会に貢献してきました。

トラック・バスは、部品や素材をつくる段階から、車両製造、お客様による使用、そして廃棄までの製品ライフサイクル全般で環境に負荷を与えています。

日野は社会のライフラインである物流・人流を支え続ける会社として、深刻化する地球温暖化、水不足、資源枯渇、自然破壊などの様々な地球環境問題に対し、日野グループが成し遂げるべき6つのチャレンジを掲げ、真正面から取り組んでいます。

[「日野環境チャレンジ2050」についてはこちら](#)

日野自動車成し遂げるべきチャレンジ6項目



SDGsへの貢献を通じて日野が目指す姿

●トラック・バス事業における各ステップで、環境負荷最小化 [詳しくは P.32](#)



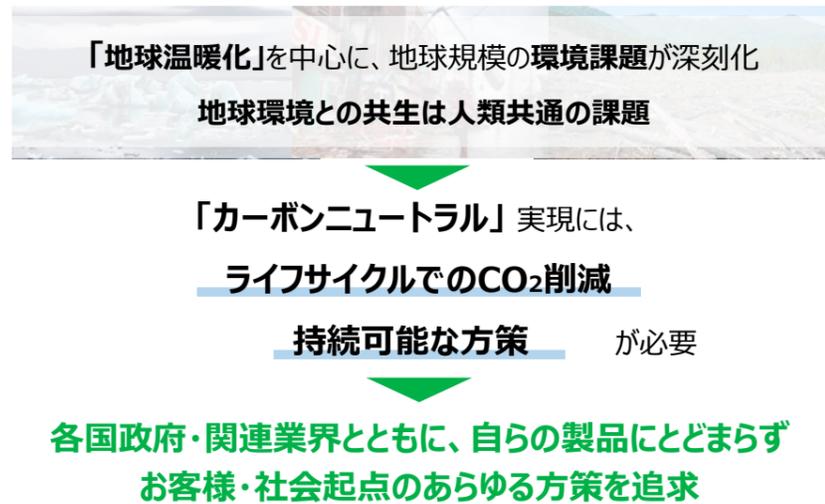
〈サステナブルな社会の実現に向けて〉

「日野環境マイルストーン2030」

環境負荷「ゼロ」の実現に向けた中間マイルストーン

日野は、環境課題解決を経営の最重要課題の1つと位置付け、持続可能な地球環境への貢献を目指す「日野環境チャレンジ2050」の実現に向け、2021年4月、重点取組課題として掲げた6項目のチャレンジにおける2030年までの中間マイルストーンを設定し、取り組みを一層加速しています。

地球環境との共生は今を生きる人類共通の課題です。「カーボンニュートラル」の実現に向けて、ライフサイクル全体におけるCO₂を徹底的に削減すべく、各国政府・関連業界と連携し、お客様・社会起点の姿勢であらゆる方策を追求し続けます。



日野環境マイルストーン2030の目標

| 日野環境チャレンジ2050 | お客様・社会起点のあらゆる方策を追求 | 日野環境マイルストーン2030 |
|--------------------------------|--------------------|---------------------------------------|
| ライフサイクルCO ₂ ゼロチャレンジ | 脱炭素エネルギーの導入 | 13年比 ▲25% |
| 新車CO ₂ ゼロチャレンジ | 技術開発・普及促進 | 13年比 ▲40% |
| 工場CO ₂ ゼロチャレンジ | 輸送効率化 | 13年比 ▲40% |
| 工場CO ₂ ゼロチャレンジ | 製造工程の脱炭素推進 | 13年比 ▲40% |
| 水環境インパクト最小化チャレンジ | 使用量低減・排水質管理の徹底 | 量：地域特性を考慮した節水・循環利用 質：厳しい自主基準での徹底管理 |
| 廃棄物ゼロチャレンジ | 資源循環の推進 | 18年比 ▲30% |
| 生物多様性インパクト最小化チャレンジ | 地域環境に応じた保全活動 | 「自然と共生」する工場づくり |

*グローバル目標

〈サステナブルな社会の実現に向けて〉

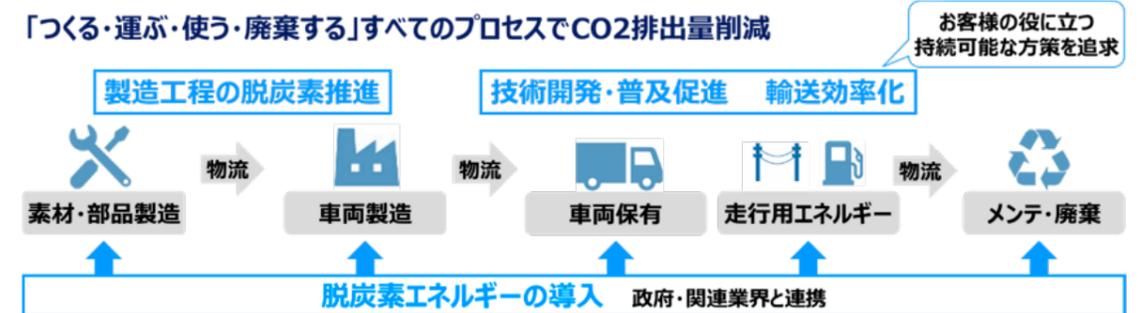
「6つのチャレンジ」



ライフサイクルCO₂ ゼロチャレンジ

目標 ライフサイクルにおけるCO₂排出量を13年度比 ▲25% (グローバル平均)

カーボンニュートラルとは、車両のライフサイクルに関わるすべてのプロセスで排出されるCO₂を実質的にゼロにすることです。「使う」プロセスでの排出量は全体の約9割を占め、電動化などの技術開発を促進すると共に、その技術を「普及」させる必要があります。また社会全体での輸送効率化は、保有車両も含む全体のCO₂削減に貢献します。その「使う」の主体であるお客様・社会のお役に立ち、必要とされる(=持続可能な)方策を追求し、普及させていきます。また、各国政府のエネルギー政策・インフラ整備やエネルギー産業の取組みと足並みを揃え、日野が行うべきことを徹底的に進めていきます。



新車CO₂ ゼロチャレンジ

目標 製品走行時のCO₂排出量を13年度比 ▲40% (グローバル平均)



●車両電動化の加速

お客様ごとの使われ方、ニーズ、各市場のインフラ整備状況やエネルギー政策など、徹底してお客様目線に立ち実用的で役に立つ選択肢をご提案する為の技術開発促進と、その技術を普及させるためのサービスのご提案と合わせ、早期の社会実装を目指します。

「使う」プロセスのアプローチ 電動車開発・電動車普及促進・輸送効率化



●ディーゼルエンジン燃費向上

日野の強みとしてこれまで世界中のお客様から信頼をいただいていたディーゼルエンジン(含むハイブリッド技術)の環境技術に更に磨きをかけていきます。



●輸送効率化

車両目線でのCO₂排出量削減に加えて輸送効率の向上を目指し、さらなるCO₂削減を図ります。

〈サステナブルな社会の実現に向けて〉

「6つのチャレンジ」

工場CO₂ ゼロチャレンジ

目標 工場からのCO₂排出量を13年度比 ▲40% (全グローバル工場平均)

●革新技術の積極採用
エネルギー消費の少ない生産工法・設備

エネルギー消費を効率化するための技術導入と設計見直しや設備稼働の効率化などを組み合わせ、徹底的にCO₂を削減します。

取り組み事例



削らない機械加工



ドライ/エアレス塗装

●再生可能エネルギー導入
CO₂を排出しないエネルギーの採用

工場内での再生可能発電設備設置や外部購入電力の再生可能採用などを積極的に推進します。

取り組み事例



工場内発電



再生可能電力の採用

●日常改善の推進
ムダ・ムラの徹底排除によるエネルギー最小化

チーム日野一人ひとりの仕事が「カーボンニュートラル」に繋がっていることをしっかりと認識し、地道な省エネ活動を積上げています。

取り組み事例



工程のシンプル化/スリム化



省エネ化

水環境インパクト 最小化チャレンジ

目標 量=地域に水リスクを考慮した節水・循環利用
質=水環境の保全に繋がる厳しい自主基準での徹底管理

●使う水は少なく
製造工程での使用水量の低減

節水活動に加え、工場内排水のリサイクルや雨水有効利用など、工場外からの取水量を最小化します。

取り組み事例



雨水利用



再利用

●還す水はきれいに
徹底した排水管理

各国の法令基準より厳しく、周水環境に影響を与えない排水質の自主管理基準を設定・順守します。

取り組み事例



排水管理

廃棄物 ゼロチャレンジ

目標 グローバル生産工場からの廃棄物量 18年比 ▲30%

●廃棄物低減
3R活動の推進

現場での日常的な改善活動による減容化、最新技術を活用した廃棄物の再生・再利用化、リサイクル化により工場から排出する廃棄物を徹底削減します。

取り組み事例



鋳物砂の再生利用

●資源利用効率化
Car to Carの追求

製造過程や廃車時に排出される廃棄物の徹底的な分別による有価物化や部品のリビルドなどによる再利用で資源循環を推進します。

取り組み事例



廃棄プラスチックの燃料化

生物多様性インパクト 最小化チャレンジ

目標 全グローバル生産工場で「自然と共生」する工場*づくり

*「自然と共生」する工場とは… 環境負荷を最小化し貢献を最大化する、地域特性(生態系)を考慮した活動を推進している工場

●生物多様性の保全

地域財産である「水(川と海)」「緑(木と森)」について、地域特性に応じた保全活動を推進します。

水：河川、海洋保全活動(河川清掃など)
緑：(緑地を繋ぐ)生態系ネットワーク構築

取り組み事例



生態系調査

●学習機会の提供

次世代を担う子供や地域の皆様と地域の生物多様性について学び・考え、未来へ活動をつなぎます。

取り組み事例



植樹活動

工場内(社員)：研修、展示会など
地域(住民)：体験イベント(植樹等)